

湖北地域における稲WCSの定着化に向けて

湖北農業農村振興事務所農産普及課

【普及活動のねらい・対象】

湖北地域では平成 20 年度に旧西浅井町にて生産調整の有望品目として、1.2ha のWCS用イネの栽培が始まりました。21 年度までは畜産農家の呼び掛けにより耕種農家がWCS用イネを栽培していましたが、22 年度に始まった水田利活用持久力向上事業に伴う助成金の交付が受けられることで、耕種農家自らの意志で栽培を希望する傾向も見られました。その結果、今年度はWCS用イネの栽培面積が地域全体で 17.4ha まで拡大し、作付地も点在化したことで、ほ場から畜舎までのローバールの運搬等に多大な時間を要し、作付地の集約化を図る必要性が生じてきました。また、栽培側と利用側の経費調整について、特定の畜産農家で対応していましたが、栽培面積の増加で業務過多となり、組織による運営が必要となってきました。



専用収穫機にて収穫

【普及活動の成果】

（１）協議会の立ち上げ

平成 23 年 9 月に農林水産省の戦略作物生産拡大関連施設緊急整備事業における機械導入の申請を行い、これを機に J A 北びわこを事務局とした「西浅井地域飼料用稲推進協議会」を立ち上げました。今後、協議会を中心に専用収穫機の導入やWCS用イネの受委託調整などの協議を行う予定です。

（２）中山間地域は野生獣との戦い

長浜市西浅井町塩津浜ではイノシシに加え、近年ではシカによる農作物被害が見られ、低収量のほ場が存在していました。そこで、今年度は既存のワイヤーメッシュ柵に加えて、シカ対策として簡易電気柵の設置、農業技術振興センターより在来種であるシシクワズの種子を譲り受け、被害が甚大なほ場での栽培に取り組みました。その結果、ほ場にはイノシシ、シカの痕跡が若干見受けられたものの、食害はなく、収穫に至りました。また、ウシの嗜好性も良好なことから、一部は来年の種子用に調製され、シシクワズの作付面積を拡大する予定です。



出穂時のシシクワズ